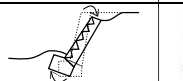


(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票	調査日時	年	月	日	時	調 査 番 号		
	地震名又は降雨災害名							
被 害 発 生 場 所	都 道 府 県			市 郡		区 町 村		
	地区 団地			丁 目		番 号		
所有者・管理者氏名	記入者氏名			TEL：				
所有者・管理者の連絡先	TEL：			居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅		
<被 災 状 況 図>				応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録				
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾 斜	5-2.倒 壊	6.擁壁の折損	7.崩 壊
								
8.張り出し床版付擁壁の支柱の損傷				9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状		
								
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。				建物・道路との位置関係(基礎点)				
								
[平面図]								[断面図]
被災写真の有無	☐ 無 ☐ 有→写真番号 []							
特記事項								

擁壁の基礎的 条件	擁壁の種類	☐ コンクリート系擁壁 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 逆T型 ☐ 重力式	☐ 増積み擁壁	増積部分 擁壁部分 全擁壁高	m	増設高	m														
		☐ 場所打ち ☐ 間地石 ☐ その他	☐ プレキャスト ☐ コンクリートブロック	☐ 二段擁壁	上順 下部 上部高	m	下部高	m														
基礎点	①湧水	乾燥	0	0	基礎点計 ①+②+③																	
		漏洩	0.4	0.2																		
②排水施設	にじみ出し、流出	0.8	0.4																			
	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0																			
③高さ	水抜孔有、天端は表面水が透過しやすい	0.4	0.2																			
	水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4																			
	H≦1m	0	0																			
	1m<H≦3m	0.2	0.1																			
	3m<H≦4m	0.4	0.2																			
	4m<H≦5m	0.6	0.3																			
5m<H	0.8	0.4																				
区分	程度	小					中					大										
変状形態と変状点	項目	擁壁種類	コンクリ	練積	増積	2 段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2 段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2 段	張出	空積		
	1 クラック		1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8			
	2 水平移動		2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9		
	3 不同沈下・目地の開き		3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10			
	4 ハラミ			4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10		
	5 傾斜・倒壊		5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10			
	6 擁壁の折損		6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10			
	7 崩壊			9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10		
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷						7							9						10		
	9 基礎及び基礎地盤の被害		10																			
	10 排水施設の変状		3																			
11 擁壁背面の水道管等破裂		10																				
変状の程度	項目/程度	小							中							大						
	1 クラック(幅)	2 mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合 2 mm未満。)							2mm～20 mm未満 (コンクリート系擁壁の場合 2mm～5 mm未満。)							20 mm以上 (コンクリート系擁壁の場合 5 mm以上)						
	2 水平移動 (伸縮目地前後のずれ)	5 mm未満の隙間(変位)がある。							5 mm～50 mm未満の隙間(変位)がある							50 mm以上の隙間(変位)がある						
	3 不同沈下・目地の開き (目地上下・左右の開き)	5 mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。							5 mm～50 mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。							50 mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。						
	4 ハラミ (デシジョンクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け(積石が 1～2 個抜け落ちる)							宅地地盤にテンションクラック無し 円弧すべりのおそれ無し							宅地地盤にテンションクラック有り 円弧すべりのおそれ有り						
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合:天端 50 mm未満の傾斜)							擁壁が前面地盤に対し垂直以上。 (コンクリート系擁壁の場合:天端 50 mm以上の傾斜)							擁壁が前傾・倒壊してその機能を失っているもの。						
	6 擁壁の折損 (横・ななめびわれから起きるもの。はらんでいるが曲線的でなく、クラックを境に鈍角に折れている)	クラックを境にわずかに角度をなしている。 (コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)							クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)							一見して大であると判るもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1 mmでも剪断破壊があり後傾している。)						
	7 崩壊	中間辺りから上が滑っている。							基礎部を残して滑っている。							機能を果たしていない。						
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。							支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。							支柱の剪断破壊。						
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。																				
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。							左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。							水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。						
11 擁壁背面の水道管等破裂	破裂して水が流出している。																					
被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		基礎点		被害点		☆被害程度の点数と危険度判定☆																
			+		+		無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1～4.5 点未満 (当面は防災上問題無し) 中被害： 4.5 点～8.5 点未満 (制限付き立入、進行していれば避難) 大被害： 8.5 点～(危険、要避難、立入禁止)															
危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無																				
所見(記入者の意見)		緊 急		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小		(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)																
※無被害の場合は記載無し		拡大の見込		☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可		(備考：)																

(様式－2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年 月 日 時			調査番号				
		地震名又は降雨災害名								
被害発生場所		都道府県			市郡		区町村			
		地区 団地			丁目		番 号			
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL：						
所有者・管理者の連絡先		TEL：		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅				
<被災状況図>					応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
宅 地 地 盤					の り 面 ・ 自 然 斜 面					
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラム	2-2.盤ぶくれ	3.ガリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
										
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状		※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。						
										
[平面図]					[断面図]					
被災写真の有無		☐ 無 ☐ 有→写真番号 []								
特 記 事 項										

のり面・自然斜面の基礎的条件									
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング		☐ 無 ☐ 有				
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設		☐ 無 ☐ 有(のり肩、小段排水)				
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高 m(平均高 m) (うち擁壁高 m)		のり面保護工		☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
のり面勾配		度		擁壁配置		☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部 ☐ のり面の下部 ☐ 全面			
のり長さ		m		家屋の有無		上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
変 状 形 態 と 配 点 表									
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大		
	1	クラック(幅)	3 cm未満		1	3～15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面	5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満		2	20～50 cm未満	4	50 cm以上	6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満		2	10～25 cm未満	4	25 cm以上	7
	4	段差(段差量)	20 cm未満		3	20～50 cm未満	5	50 cm以上	8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満		7	20～50 cm未満	8	50 cm以上	9
	6	湧水、噴砂	☐ 無 ☐ 有→+1 点(上の点数に1点加える)						
の り 面 ・ 自 然 斜 面	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大		
	1	クラック(幅)	3 cm未満又は単数		1	3～15 cm 未満又は複 数	2	15 cm以上又は全面	3
	2	ハラム(隆起量)	10 cm未満		3	10～30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3	ガリー浸食	クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。		6	のり面の表土が雨裂 に陥没するなど放置 していると被害が広 がるおそれのあるも の。	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8
	4	滑落・崩壊	部分的な表層すべ り、又はのり面上部 の小崩壊。		7	表層すべりが進んで えぐり取られたよう な状態。放置すると 拡大するおそれのあ るもの、又はのり面 中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9
	5	のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン クリート吹付工にわ ずかにテンションク ラックが見られるが 吹付工のずれは認め られない程度。		7	例えば、のり枠の部 分的な破損。又はコン クリート吹付工のク ラック部分で陥 没・ずれが見受けら れる。	8	例えば、のり枠の浮 上り破壊。又はコン クリート吹付工のラ ス金網が露出し、コン クリート吹付面にも 破損が見受けられる。	9
	6	排水施設の変状	天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。		3	左に加え、のり面の クラック、又は目地 からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7
	7	のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。				8		
	8	湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有→+1 点(上の点数に1点加える)						
	被害の判定値 ※基礎点+変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		点		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1～3 点(当面は防災上問題無し) 中被害： 4～7 点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害： 8～10 点(危険、要避難、立入禁止)				
危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無							
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊 急 度	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)							
	拡大の見込	☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考：)							